

Comparison of SARS-CoV-2 detection in nasopharyngeal swab and saliva.

Iwasaki S, Fujisawa S, Nakakubo S, Kamada K, Yamashita Y, Fukumoto T, Sato K, Oguri S, Taki K, Senjo H, Sugita J, Hayasaka K, Konno S, Nishida M, Teshima T. J Infect. 2020. S0163-4453 (20) 30349-2.

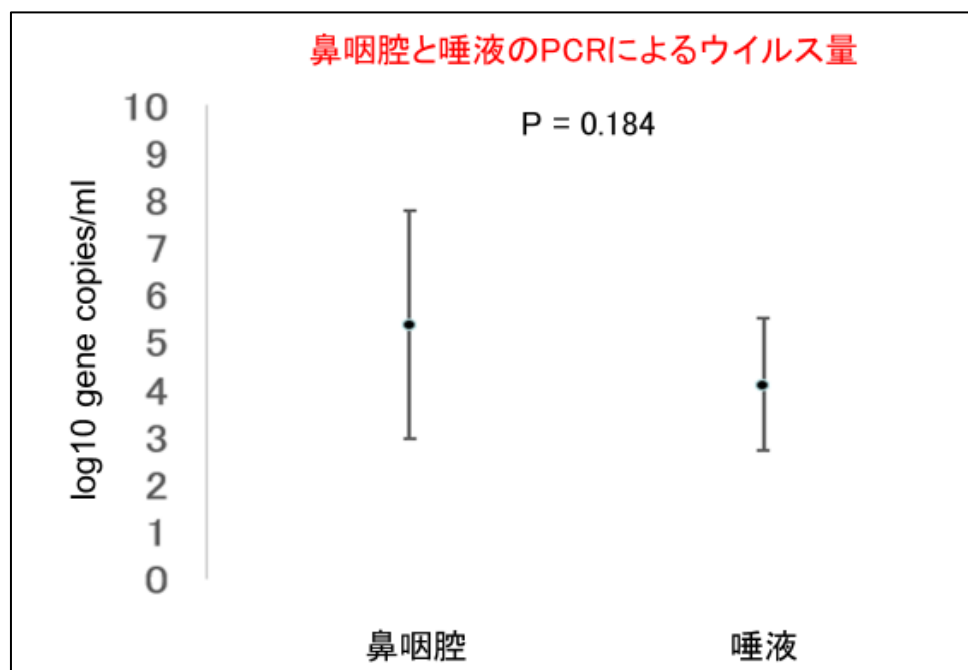
全文 PDF: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7270800/pdf/main.pdf>

鼻咽腔検体と唾液検体での PCR ウイルス量の比較

著者らは 10 人の COVID-19 患者を含む 76 人の患者において、同時に採取された鼻咽頭と唾液のペアサンプルで、SARS-CoV-2 の PCR 検出の有効性を前向きに比較した。

結果、いずれかの PCR 検査での陽性者は 10 人、このうち鼻咽腔と唾液のサンプルで 8 人は一致、1 人は鼻咽腔のみ、1 人は唾液のみで PCR 検査陽性であった。2 つのサンプル間のウイルス検出の全体的な一致率は 97.4% (95%CI、90.8-99.7) であり、両者の検査間的一致率は高かった。鼻咽頭サンプルと唾液サンプルのウイルス量は、それぞれ平均 5.4 ± 2.4 および 4.1 ± 1.4 log₁₀ gene copies/ml (P = 0.184) であり、2 つのサンプル間で有意差はなかった。COVID-19 患者で、ウイルス量は同等であったが、鼻咽頭サンプルと比較して、回復期の唾液中でより早くウイルスが消失する傾向であった。

この結果は、唾液検体による検査が上咽頭検体と同等の信頼性があり、医療従事者にリスクをもたらすことなく、広範囲の PCR 検査を容易にすることを示唆していた。



(図は論文本文より要約者が作成)